

マテリアリティ
融合



融合

サステナブルな社会の実現に向けて、LIFEの基盤を支え、“未来につづく安心”を創造しつづけるために、積水化学グループは技術プラットフォームをベースとして、社内外のさまざまなステークホルダーや企業と融合し、イノベーションを加速していきます。

このマテリアリティの位置付け

当社グループは、「融合」を長期ビジョン実現のためのイノベーションを加速、高めるドライバーと位置付けています。気候変動をはじめとした、非常に難しくかつ喫緊の社会課題が山積する中、これまで以上に社内外のさまざまなステークホルダーや企業等と技術・事業機会の視点で融合し、イノベーションの圧倒的な加速を目指します。現中期経営計画においては、社内のカンパニー横断でのプロジェクト推進、社外機関等との連携やオープンイノベーションなどに取組み、自前主義から脱却する風土・文化への転換を取り組んでいます。

マネジメント・アプローチ

私たちの想い

当社グループでは長期ビジョン「Vision 2030」に基づき、ESG経営を基軸として現有事業の拡大と新たな事業の創出を進めています。ESG重要課題の一つとして「融合」を掲げ、これまで取り組んできたカンパニー横断のプロジェクトの実施にとどまらず、技術開発や人材育成、また社外機関等との連携やオープンイノベーションなども含む、より幅広く効果的な融合の実現を目指します。

融合を推進するための体制と目標

当社グループでは、長期ビジョンの実現に向けて、各事業ドメインにおいて、既存事業のさらなる成長を目指す強化領域と、新たな事業基盤を創出する革新領域を定めています。強化領域は各カンパニーの取り組みが主体となります。革新領域においては、各カンパニーと連携して経営戦略部やR&Dセンターが長期的な事業創出活動を担当するなど、全社一体となっての取り組みを進めています。

前年度に新製品や新プロジェクトの件数をKPIとして定めましたが、今年度は融合が順調に進み、目標値を達成しました。また、革新領域での事業創出状況については、R&D委員会において定期的にモニタリングされており、経営トップを交えて、さらなる融合促進に向けた議論を進めています。

取締役会

R&D委員会

委員長：加藤 敬太 代表取締役社長
副委員長：向井 克典 R&Dセンター所長
委 員：各カンパニープレジデント、コーポレート執行役員
事務局：R&D戦略グループ

R&D委員会の目的

- ・次世代事業創出に関する全社R&D基本方針の策定
- ・次世代事業創出に関する全社R&Dテーマおよび実行計画の策定

カンパニー

各カンパニー研究所

開発責任者会議

コーポレート

R&Dセンター

新事業開発部

経営戦略部

技術開発の融合

技術開発は新しい事業を生み出す源泉であり、融合においても非常に重要です。当社のR&Dセンターでは組織のミッションとして「カンパニーとの融合強化」を掲げ、「コア技術融合」「企画融合」「開発融合」の3つの観点から、各カンパニーとの融合を進めています。コア技術融合については、昨年度R&Dセンターに一本化した基盤技術の一つである情報科学において、全社向けのセミナーを複数回開催したり、マテリアルズインフォマティクスを用いたカンパニー開発テーマの支援を推進することで、データサイエンスの底上げを進めることができました。

企画融合については、カンパニー企画部門とR&Dセンターの企画人材が連携することで、新たな開発テーマを創出することができており、融合強化の効果が現れてきています。

開発融合については、カンパニーとの融合に加えて、社外との融合も積極的に進めています。当社が開発を進めているペロブスカイト太陽電池は、東京大学や立命館大学との連携により国の開発プロジェクトに採択されており、実用化に向けた開発をさらに加速していく予定です。また、カーボンリサイクル技術においても、世界最大級の製鉄企業であるArcelorMittal社とパートナー・シップを締結しました。当社の革新的技術を活用して、製鉄時のCO₂排出量削減に向けた取り組みを進めていく予定です。